

尾山台ナザレン幼稚園
2024年度 学校自己評価
学校関係者評価

1. 学校評価を行うに当たって

尾山台ナザレン幼稚園がこれからも地域に根差し、信頼される幼稚園として歩み続けていくためには、保育の質の向上に継続的に取り組むことが不可欠です。そのためには、日々の実践を振り返りながら、保護者の皆様に安心していただける保育を行い、地域社会の中で認められる存在となることが重要です。

私たちは、どのような保育が求められているのかを常に考え、「子どもたち一人ひとりが神さまに愛されている存在である」ことを土台に、目指す保育の姿を明確にし、具体的な取り組みを進めてまいります。

本園は、今年度も自己評価を通して現状を見つめ、園全体で課題を共有し、よりよい教育・保育活動へとつなげていけるよう努めてまいります。

2. 尾山台ナザレン幼稚園の教育目標

教育目標	「みんなで育つ、みんなの幼稚園」を目標に、神に愛され、みんなに愛され、ともに育つ子どもとなるように成長を支援する。
教育の特色	保育のキーワードとして、 ① キリスト教保育 ――― 愛されること、そして愛することを知る ② 自由保育 ――― 自由な遊びを通して主体的に遊び込む ③ みんなの幼稚園 ――― 誰一人取り残されず、共に育ち合う これらを土台としながら、子どもたちが 健やかな心と身体 を育めるよう保育に取り組んでいきます。

3. 評価

	評価項目	具体的な取り組みと自己評価
キリスト教保育	日々の礼拝	日々の保育の中で、短い時間ではありますが、讃美歌を歌い、祈りをささげる時間を大切にしています。 この積み重ねを通して、子どもたちは「神さまに愛されている存在であること」を少しずつ感じ取り、心にとめていくようになります。 今年度は、保育者の祈りに耳を傾けるだけでなく、自分の言葉で神さまに祈る子どもたちの姿が多く見られました。 神さまに語りかけることが自然な営みとなり、日常の中で祈りが息づいている様子に、私たちも喜びと手応えを感じています。
	日曜礼拝	日曜日には、親子礼拝を行うことによって、初心の親にもわかるような題材と話し方によって、キリスト教への理解を求めた。 両親あるいは家族での参加もあり、キリスト教への理解を深めてもらえた。
	クリスマス礼拝	年少・年中組では、ご家族とともにクリスマス礼拝（ページェント）を行いました。 また、年長組は今年も教会堂にて燭火礼拝を行いました。キャンドルの灯りに包まれたあたたかな雰囲気の中で、クリスマスを迎える特別な時間となりました。 どの礼拝でも、保護者の皆様が心を動かされる様子が見られ、クリスマスの本当の意味を感じていただけるよい機会となりました。
	聖話絵本の読み聞かせ	日々の礼拝の中で聖書絵本を読み聞かせたり、子どもたちが自由に手に取れる場所に置いたりすることで、より身近に聖書の世界に触れられるよう工夫しています。 特に年長組では、聖話に親しみ、登場人物の気持ちに共感したり、物語を自分の言葉で語ったりする姿が見られました。

自由保育	自由遊びを中心として	子どもたちがじっくりと遊びに取り組める時間を大切にしています。 特に年長組では、子どもたちが主体的に考えた遊びを実現できるよう見守り、必要に応じて保育者がそっと支えたり、一緒に遊びに加わったりしています。 一人ひとりが思い思いの遊びに夢中になる姿や、友だちと相談しながら協力して遊びを広げていく様子も見られます。 園庭では異年齢の子どもたちが自然に関わり合い、年長児が年下の子の手助けをしながら一緒に遊ぶ姿もよく見られます。
みんなの幼稚園	インクルーシブ保育に取り組む	今年度は、発達の凸凹の有無にかかわらず、すべての子どもが同じ環境で過ごすことの大切さを改めて認識しました。それは、多様な子どもたちがお互いに理解し合い、助け合いながら成長していくことができるからです。 保育者もインクルーシブ保育に対する理解を深めるため学びを重ねる中で、葛藤や課題と向き合いながら、より良い支援のあり方を模索しています。
教育課程の編成と実施	個人記録の作成	個人記録は、一人につき月に1枚のペースで作成し、子どもたちや保護者がいつでも閲覧できるよう配慮しました。また、記録の公開日時についてもあらかじめ明確に設定し、安心してご覧いただける環境づくりに努めています。
	制作について	母の日、父の日、クリスマスのプレゼントを製作するときにも、一斉に制作を行わず、小グループに分け行った。希望者から少しずつクラス全体に波及するようになった。
	食育について	園の田んぼで田植えを行い、収穫した稲を刈り入れ、脱穀、トーミ、精米との段階を体験しお米を炊き、おにぎりにしてみんなでいただきました。 また、園の畑ではトマトやきゅうり、大根、サトイモ、小松菜、菜の花などを栽培し、収穫後に園内で調理して味わいました。 さらに、園庭の梅を使ってシロップを作り、みんなで楽しみました。

	園庭環境について	・ビオトープの一環として池を作り、金魚やめだか、ザリガニなどを放して育てた。子どもたちが慣れずに手で触ったりしたこともあり、死んだり、いなくなったりした。
研修	園内外の研修に参加する	外部の研修、特に東京都私立幼稚園教育研修会の研修、及び世田谷区私立幼稚園協会の研修には積極的に参加した。また、オンライン配信による研修を受けた。園内研修を2回行なった。
地域との連携	地域や小学校との協力連携	年長組の子どもたちが近隣の老人ホームや玉堤小学校を訪問し、交流を行いました。児童館にパンフレットを設置していただいたほか、地域の方々との情報交換を通じて、地域とのつながりを深めました。 さらに、7年ぶりにバザー（ナザレンマルシェ）を開催し、地域の八百屋さんや卒園生の保護者による手作り品の出店、地域猫の保護活動の支援団体など、多くの方々にご協力いただきました。
保護者との連携	幼稚園での子どもの様子を知ってもらう	日々の保育の様子をれんらくアプリを通して行なった。 保護者の保育参加を年2回行なった。
安全管理	防災訓練の実施 防犯訓練の実施	火災、地震に対する防災訓練を行なった。 防犯訓練を行なえなかった。
保健管理	園児の健康に関わる年間指導計画 健康診断の定期的な実施と園児の健康状況の把握	内科健康診断と歯科健康診断を行なった。 職員の定期健康診断を行った。
預かり保育	預かり保育の充実	今年度は延べ5,666名の園児の預かりを行った（1日平均25名強であった）。 全体として、定期的に利用する園児が増えてきた。
未就園児	あんず倶楽部による親子教室	今年度より世田谷区が行う「未就園児の定期的な預かり事業」として、行いました。 また、保育者による子育て相談など子育て支援活動の一環としても行い、その利用児童のほとんどが入園に繋がった。
れんらくアプリの活用	れんらくアプリの有効活用	欠席届、預かりの申し込み、取り消しをれんらくアプリから行なった。

	おうちえんの利用	緊急連絡等をれんらくアプリから行なった。 用品、写真の販売もれんらくアプリを通して行なった。 クラスだより、幼稚園からのお知らせ等はおうちえんを通して配信した。
情報発信	情報のわかりやすさと適切さ	本年度よりInstagramを開設し情報発信を開始しました。 園での行事や活動の様子、未就園児向けのおはなし会の案内なども発信しています。実際に、Instagramを見て来園された方もおり、一定の効果が見られました。

5. 2025年度の取り組み

教育目標「みんなで育つ、みんなの幼稚園」8年目

- ① 「みんなで育つ、みんなの幼稚園」の目標に向けて、中でも自由保育、それも徹底的に遊び込むことに重点的に取り組む。特に年長組では子どもたちが考えた遊びをできるように見守る。またインクルーシブ保育の重要性について理解を深める。
- ② 個人記録の充実
- ③ 園庭環境の整備
- ④ れんらくアプリ（保護者連絡ツール）の有効活用
- ⑤ 預かり保育の充実
- ⑥ 未就園児の定期預かりの充実

6. 関係者評価委員会の評価

- ①本幼稚園の経営母体である宗教法人日本ナザレン教団の尾山台幼稚園運営委員会の評価です。
安心感のある保育を実践しており、預かり保育や宅配弁当など、現代のニーズを的確に取り入れている点が評価できる。広い園庭や園舎といった恵まれた環境を十分に活かし、今後も質の高い保育の継続を期待したい。